平成 25 年８月 13 日

各 位

本 社 所 在 地　東京都港区赤坂五丁目２番 20 号
会　　社　　名　株式会社アエリア
代表者の役職名　代表取締役社長　小林　祐介
（コード番号：3758）
問　合　せ　先　取締役　管理本部長　清水　明
電　話　番　号　03-3587-9574
（URL http://www.aeria.jp/）

営業外費用の計上及び第２四半期連結累計期間の業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 12 月期（平成 25 年１月１日～平成 25 年 12 月 31 日）の第２四半期累計期間において下記のとおり営業外費用を計上いたしますのでお知らせいたします。また、平成 25 年２月 15 日に発表しました平成 25 年 12 月期（平成 25 年１月１日～平成 25 年 12 月 31 日）の第２四半期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績に差異が生じましたので、通期業績予想の修正とあわせ下記のとおりお知らせいたします。

記

１．営業外費用の計上

当社及び当社連結子会社であります Gui You Information Technology Limited において、外部に対して貸し付けている債権の回収可能性を考慮し貸倒引当金を単体で 24 百万円、連結で 69 百万円計上致しました。

また持分法適用会社である AGGP Holdings, Inc.の損失の計上に伴い、持分法による投資損失を連結で 66 百万円計上致しました。

この結果、単体で 24 百万円、連結で 135 百万円の営業外費用を平成 25 年 12 月期第２四半期累計期間において計上しております。

２．平成 25 年 12 月期第２四半期連結累計期間の業績予想と実績の差異

（平成 25 年１月１日～平成 25 年６月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 700	百万円 30	百万円 40	百万円 20	円 銭 3 91
実績（B）	400	△294	△393	△352	△71 81
増減額（B－A）	△300	△324	△433	△372	－
増減率（%）	△42.9	－	－	－	－
（ご参考）前期実績（平成 24 年 12 月期第２四半期）	3,101	△319	△338	△328	△63 11

(注)平成 25 年７月１日付けで普通株式１株につき普通株式 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、業績予想の１株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

３．差異の発生理由

売上高につきましては、主軸であるオンラインゲームの配信事業において新規タイトルのリリースが遅れたことにより、前回予想を下回る結果となりました。営業利益につきましては、開発費及び広告宣伝費の積極的な先行投資により営業費用が嵩み、前回予想を下回る結果となりました。また、経常利益につきましては、持分法による投資損失並びに貸倒引当金の計上により、前回予想を下回りました。四半期純利益につきましては、投資有価証券売却益の計上がありましたが、上記営業外費用の影響により前回予想を下回る結果なりました。

４．平成 25 年 12 月期通期の業績予想数値の修正（平成 25 年１月１日～平成 25 年 12 月 31 日）

連結業績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	1,700	90	120	100	19 58
今回発表予想（B）	1,440	△228	△260	△300	△61 15
増減額（B－A）	△260	△318	△380	△400	－
増減率（%）	△15.3	－	－	－	－
（ご参考）前期実績（平成24年12月期）	6,160	△835	△926	480	94 16

(注)平成 25 年７月１日付けで普通株式１株につき普通株式 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、業績予想の１株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮して記載しております。

５．修正の理由

通期の業績予想につきましては、売上高は、ドラゴンズプロフェットのサービスインが６月に遅延したことにより前回発表予想を下回る見込みとなりました。第３四半期以降はドラゴンズプロフェットの大型アップデート及び既にリリース済みの『ガンガン！！バトル RUSH！』を始めスマートフォン向け新規コンテンツの積極的な投入により、オンラインゲーム事業の収益基盤が強化されるものと考えております。

営業利益は、当第２四半期までの開発費及び広告宣伝費の積極的な先行投資により営業費用が嵩み前回予想を下回る見込みとなりました。第３四半期以降は効率的な開発体制の構築により費用の圧縮を図って参ります。

また、経常利益につきましては、持分法による投資損失並びに貸倒引当金の計上により前回予想を下回る見込みとなりました。

当期純利益につきましては、上記に記載のとおり営業外費用が発生したことにより前回予想を下回る見込みとなりました。

（注）上記の業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる場合があります。

以 上